



< 枝打ちは、どうやってするの？ >

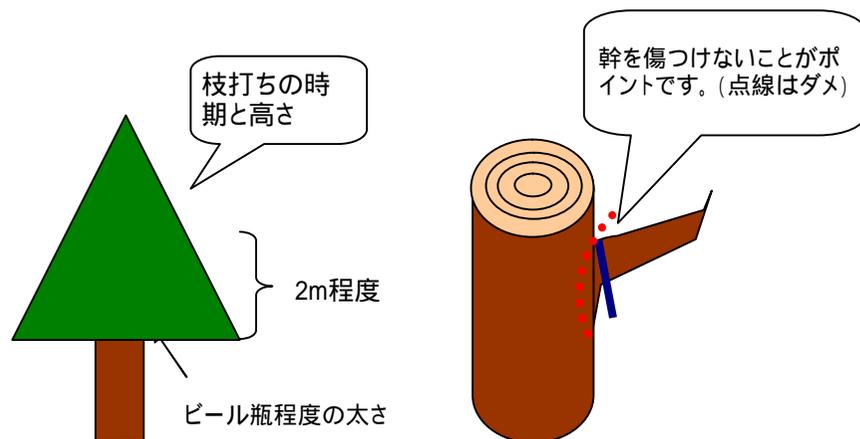
枝打ちは無節の材を生産するために、一定の高さまでの枝を根本から取り除く作業です。

枝打ちをする際には、いつ頃にするのか、何mくらいの高さまで打つのかがポイントとなります。

時期は幹がビール瓶程度の太さになった頃、高さは枝下高から2m程度とするのが一般的です。

なお、作業適期は早春前までと、秋～冬にかけてです。

高い木の場合、はしごをしっかりと固定し、高所では安全帯を装着して転落を防止しましょう。



森林再生の現場から

里山整備事業による山の手入れが、本格的に動き出しました。下の写真は、ヒノキ人工林の枝打ちの現場です。

右下のように木が若いうちに枝打ちをすると作業は楽ですが、雪折れ易く、結果的に健全に成長出来ない場合があります。

一方、左下のように適切な時期に作業をすると健全な森林に育ち、良質な木材も生産できます。

枝打ちの作業は危険を伴います。無理せず業者に委託することも考えましょう。この制度では対象経費の85%まで補助します。

10年生、そろそろ枝打ちの適齢です。林床に光が入ると草が生え表土が豊になり木が生長するための養分を作り出します。



3年生、枝打ちするには早すぎました。もう少し成長してから...



森林整備を始めませんか？

山の手入れを支援する制度が動き出しました